

来賓挨拶 I

国土交通省 都市局長 栗田 卓也 氏

国土交通省の栗田でございます。本日は全国エリアマネジメントネットワークの大変大きな催しの開催ということでございます。去年第一回にも寄せていただきました。その時のことも大変鮮明に記憶しております。今日改めて多くの方にお集まり頂きまして、今、小林先生からご紹介があった財源その他のいろいろな議論を積み重ねていただくことを、関係者として嬉しく思っている次第でございます。

改めて小林先生のお話を伺っておりまして、私個人的にもエリアマネジメントには長く興味を持ち、勉強をし、私の仕事にも反映して来たつもりでございますが、ふと思い出しました。エリアマネジメントという言葉は実務の世界で多くの方に馴染みのものとなって来ました。

10年ちょっと前、名実共に日本の第一人者である小林先生がエリアマネジメントというタイトルの本を書かれたその前後、仕事で色々な人にお話ししてもエリアマネジメントって何ですかと聞かれることがあり、定義的にご説明することも難しい、実体先行で現場ありき、現場から積み上がって来ている領域だったと思います。

そういった時期に、政策的に進めていかなければならないということを経験された方々に説明しないといけないということで、苦労していた時期もあった事を思いながら小林先生のお話を伺ってまいりました。仕事柄、国会の先生にもお話することは多いですが、今ではエリアマネジメントという言葉の前提の説明もなく、普通の共通語として表記していくことができるステージにまで来たということでございます。

その上でまた、さらにこれを進めていくために色々な課題があるということも小林先生から改めて感じた次第でございます。私たち国土交通省も、少しでも現場で使っていただけるようにという思いで色々な制度の工夫を凝らしています。

ついこの間の国会では、公園をもう少し多目的に色々な方に使ってもらえないか、あるいは市民緑地という形で街の空間をいろいろな方のお力でよくしていけないかということを議論して参りました。このようなことも広い意味ではエリアマネジメントに大変深く関わっています。

6月に法律を施行させていただきましたが、いずれももうすでに現場での適用事例が始まっているということでございます。ぜひまたそういったことを見ていただいて、お伝えいただけることは現場でお伝えいただければありがたいと思います。

色々な取り組みをますます進めていかなければならないと思っております。官と民、一体となって都市の魅力を高めていく、色々な方々によるエリアマネジメントをますます広めていくことが大事だと思っております。我々としましても必要な制度の充実ですとか、あるいはエリアマネジメントのために必要な支援としまして情報交換の一つのコアになるとか、

いろいろな役割を積極的に果たしていきたいと思っております。終わりに全国エリアマネジメントネットワークのますますのご発展、お集まりの皆様方のますますのご健勝ご活躍を祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきますと思います。本日は大変ありがとうございました。